

令和6年度 第3回公立幼稚園のあり方検討会（会議録）

日時 令和6年11月29日（金）午後2時～午前4時

場所 森町保健福祉センター2階 機能回復訓練室

出席者 会長 田宮 縁
委員 萩本 弘江
委員 鈴木 秀臣
委員 増田 博行
委員 安間 葵（代理出席）
委員 渡邊 浩之
委員 平松 悦夫
委員 平出 麻子

（事務局）

学校教育課長	塩澤 由記弥
健康こども課長	朝比奈 礼子
健康こども課長補佐	川島 直子
幼稚園保育園係長	米倉 雅俊
幼稚園保育園係主事	菅沼 朋恵
幼稚園保育園係指導主事	小倉 寿加子

出席 委員8名・事務局6名

議事 （1）幼稚園学級編成等における最低基準について
（2）運営の最低基準を踏まえた再編方針・適正配置について
（3）休園・廃園決定の判断基準及び利活用の方針について

議事要旨

- 1 開会（課長補佐）
- 2 挨拶

会長：今日は午前中から森町を訪問させていただいておりました。歴史民俗博物館では、河合楽器製作所が初期に作成したピアノを拝見しました。最後の方には足踏みのリードオルガンが置いてあり、そのオルガンは昭和3年に町の有志の方3人から幼稚園に寄贈され

たということが書かれていて、教育に熱心な地域なのだなということを改めて感じたところでした。また、明治38年の森幼稚園の写真とともに、県下で6番目の幼稚園だということも添えられており、それだけ歴史のあり、教育に熱心な土地柄の公立幼稚園のあり方について検討する会に、一員として加えさせていただいているという重みを感じながら、より良い未来に向けての検討ができればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

3 議題

(1) 幼稚園学級編成等における最低基準について

事務局説明（幼稚園保育園係長）

委員：前回の検討会で、1学級の最低基準を決めるにあたっていろいろお話を聞かせていただきましたが、コミュニケーション能力の部分を考慮すると1学級4～5人が妥当なのかなと感じました。

委員：資料を拝見し、私も1学級5人以上というのは妥当な数字だと思っております。A市の例を参考資料としてつけていただいておりますが、その中に「翌年度の入園児の募集を行わないとした場合であっても、在園している園児が卒園するまでは、幼稚園の運営を行う」とあり、休園により園を移動した自分からすると良い文章だなと思い、こちらを参考にさせていただいて良かったなと感じています。

委員：私は、天方地区に住んでいますが、長女の時に森幼稚園の方に通わせるようになりました。同学年の子が少なかったというのが理由の一つです。幼稚園へ入れるにあたって沢山の子と関わることを娘に体験させたいという思いがあり、そのような選択をしました。母親のもとから離れて、子どもがはじめて出る社会ですので、きょうだいだけではなく関わっていくとなると5人は必要かなと思っています。近所との関わりも少なくなっているので、幼稚園である程度友達ができる環境が良いと思っています。人数も減少傾向にあるということですが、そのような中でも同級生と関わることは重要になってくると思いますので、5～10人程度でやっていければと思います。

委員：前回の検討会でも、一つのグループとして活動していった時に、生活のグループ等考えても4～5人が良い人数ではないかということで、私も1学級5人程度が望ましいと考えています。ただ、園全体で15人となったときに、来年度飯田幼稚園が15人となるので、休園を検討する対象になってしまうのかと思いながら資料を読ませていただきました。自分が複々式で保育をしたときは、10人以下になったらということでスタートしてい

ますが、やはり 10 人切ってくると集団として生活していくという育ちの難しさがある一方で、小回りがきいて地域や自然との関わりの良さも感じました。園全体で 15 人というのですが、複々式で保育を経験した者としては、単純に 5 人×3 学年＝15 人で本当に良いのかとは感じます。12 人くらいでも良いのではないかという気持ちはあります。

委員：皆さんのお話や資料を拝見させていただいて、5 人ではなく 6 人で 3 学年 18 人が良いのではないかと思います。6 人であれば、2 人組・3 人組でグループ分けして活動しやすくなるのではないかと思います。

委員：私も 5 人ぐらいは欲しいと思っております。5 人の中でグループを作ったり活動したりすることは可能だと思っています。園全体の人数について単純に 3 倍ではなく、それよりは少なくとも良いのではないかと思います。

委員：1 学級 5 人、園全体で 15 人という数が、良いか悪いかというのは判断に迷うのですが、資料 3 の各幼稚園の令和 6 年度から令和 9 年度までの見込を見た時に、この基準ならば続けていけるのかなと思っています。一方で、飯田幼稚園の保護者の方は、この基準をクリアしていて飯田幼稚園が継続しているのを望むのか、園田幼稚園と一緒にすることを望んでいるのか聞いてみたいという気持ちはあります。

委員：飯田幼稚園の保護者としては、幼稚園だから入れたという部分はなく、消去法で幼稚園を選びました。年長の時は、待機児童が発生していて保育園に入れなかったのが、飯田幼稚園に入れました。年中の子が入るときには、保育園ができたのですが、上の子が既に通っているのと同じ園に入れたという経緯があります。待機児童もいなくなってこれから保護者の選択肢が増えるかと思います。幼稚園には入ろうと思えば入れる状況ですし、働いていると幼稚園は難しい部分もあります。幼稚園は教育の質など優れている部分もありますが、保育園へ通わせたい保護者が多いのではないかと思います。

会長：ある程度の人数がいれば集団をつくれますし、きめ細やかで小回りがきき、質の高い保育ができるというのは、前回での視察で保障されているので、今すぐに園田幼稚園と一緒にって欲しいという訳ではないというのが保護者の意見だと思います。

最低基準の人数は 6 人が良いのではという話についてですが、確かに 6 人というのは割り切りやすく良いのですが、良いというのは全て大人の都合で、やはり 4 人というのが生活のグループとして扱いやすく、6 人は実際に保育をしていると少し多いように感じます。A 市の指導主事や担当者に話を聞くこともありますが、最低基準に明確な根拠はなく、大人の都合だよと話されていました。

園全体の人数が単純に 3 倍でなくても良いのではないかという部分を、基準を下回ったか

らといって直ちに休園となるわけではないことも含めて明確にしておく必要があるかと思っています。

資料では「1学級5人以上、かつ幼稚園全体で15人以上」で1学級の人数と園全体の人数の両方を満たさなければならないという表現になっていますが、“かつ”を“または”に変えるのはいかがでしょうか。

事務局：“または”であれば、1学級が5人を下回っていた場合でも園全体で15人以上いれば良いという捉え方ができます。しかし、1学級の人数が2人になってしまった時に、果たしてその人数が望ましいかという議論に繋がってきってしまうので、1学級〇人という部分は大事にしていきたいと考えています。

会長：資料には「最低基準を下回る園が発生した場合、休園とすることを検討します。」とあり、直ちに休園となるわけではなく、時間的猶予があることが書かれているので、園全体で12人になってしまったとしてもすぐに休園にするわけではないと解釈はできると思います。

事務局：そうですね。休園については議題（3）でも触れますが、この最低基準は休園の検討を始める基準となるため、休園を決定する場合は、A市の例のように「在園している園児が卒園するまでは、幼稚園の運営を行う」などの条件をつけていくことにはなと思っています。

1学級が5人以上になれば、必然的に園全体で15人以上となるので、あえて園全体の人数基準を定めないとしても問題はないと思います。

会長：実際のA市の話をしますが、園児数の基準を下回ってしまったとしてもしばらくは運営していました。園児が2人の状況が何年か続いたため廃園を決定したり、公立幼稚園と公立保育園が公立認定こども園に移行する場合にも、数年かけて準備をされていた。

委員：15人以下という基準が無いと、5人以下になった時に、すぐさま休園の検討に入ると捉えかねないので、1学級5人以上“または”園全体で15人以上とした方が、ゆとりがあって良いのではないかと思います。

会長：そうですね。ゆとりのある表現が良いと思います。

事務局：学級だけの最低基準を決めてしまうと、5人以下になった時すぐに休園を検討しなければならないという点からゆとり・余裕を持たせた表現に、というのはその通りだと

思っています。

前回1学級10人だった基準を5人に引き下げたのは、現状を鑑みると、すぐに休園を検討しなければならない園があることが理由の一つです。地域の園という側面も大事にしていきたいという思いもあるため、1学級5人以上かつ園全体で15人以上という基準にしております。

会長：基準を下回った場合でも、直ちに休園を検討するのではなく、猶予をもって柔軟な対応をしていくということで、事務局案のとおり1学級5人以上、かつ幼稚園全体で15人以上を最低基準とし、基準を下回る場合においては休園を検討する。との基準を策定し、方針案に記載することとします。

（2）運営の最低基準を踏まえた再編方針・適正配置について

I 公立幼稚園の適正な園数について

事務局説明（幼稚園保育園係長）

委員：個人的な意見になってしまいますが、飯田幼稚園に通っていた身としては、残って欲しいと思っています。しかし、実情を考えると集約していく方が教育の質といった面からも良いのではないかと思います。まずは2園に集約して南と北に1園ずつ、将来的には1園になっていくと思いますが、それも段階を踏んでやって欲しいと思います。集約するとなると、幼稚園へ歩いて行ける距離ではなくなってしまうので、就学前の練習として、週一回程度行っていた集団登園もできなくなってしまうのが残念です。

委員：私は一宮地区でして、幼稚園は休園している状態で、このまま廃園になるであろうと思っているのですが。一宮地区に新たに移住してまで、何かそこで生活をしたいと思う魅力が、今、一宮地区にあるのかという点とあまりないのかなと思っています。幼稚園だったり公園だったり、育児をする上でメリットとなるものがあればよいのですが、一宮地区はそういった魅力が無くなっている状況です。もちろん縮小せざるを得ないことは承知しておりますし、費用も嵩むこともよく分かるのですが、集約することによって少子高齢化が進むことも懸念事項としてあるのではと思います。そのため、集約の判断は慎重にされるのがよろしいのかなと思いますので、私の意見としましては、今、小学校が3校ですので、それと同じ3園で頑張れたらと思います。

会長：地域の魅力というお話がありましたが、単に幼稚園の子どもたちだけではなく、移住の促進といったことも考えると地域づくりとも関係してきますね。

委員：私は森地区です。今、息子が１学級 14 人のクラスにいますが、娘の時と比べると、すごく手厚く 1 人 1 人のことを見てもらえているなというのは感じています。活発な男の子ですが、みんなが温かく見守ってくれて、保護者の方とも仲良くやっていますので、10 人くらいの人数というのが居心地良く感じています。学級の人数のことを考えると 2 園かなと思ってはいますが、通園するにあたって、遠くからその幼稚園に通わなければならないとなった時に、親も子どもも今より早く起きなければならないなど互いに負担になる部分もあると思うので、親も子どもも負担が少なく通っていけるように考えながら進めていただきたいです。

2 園にするとした場合、通園が大変などの声もあると思いますので、すぐに 2 園にするのではなく、様子をみながら納得できる形であれば良いと思います。

委員：飯田幼稚園も人数が減っていて 3 園のままだけ頑張れるか分からない状況なので、それぞれの園の特色を色濃く打ち出していきながら、地域・地区関係なく 3 園から選んで登園するような形が上手くとれば、3 園でという方法もあるかもしれません。保護者の方がおっしゃるように自分の地域の園とするのであれば、やはり 2 園で南と北に 1 園ずつとした方が今の園を活かしていけると思います。個人的には、1 園にしてこども園化というのもすごく魅力を感じますし、保育の充実にも繋がっていくのではと思います。ただ、そうになっていった場合、今ある施設を活かして 1 園にするのは無理があるのかなとは感じます。先ほどの話で、園全体の最低基準を 15 人としましたが、2 園になった場合、すぐに休園を考えなければならない人数になってしまうので、それならば思い切って幼稚園型ではなく、幼保連携型こども園化として 1 園にしていく方が良いのではと思っています。せっかくこども園化したとしてもあっという間に 15 人以下になってしまったら、意味がないと思っています。幼保連携型にして、6 年間通える園であれば、ある程度人数は確保できるのではないかと思います。

こども園化して 1 園にする場合は、送り迎えのバスも必要になってくると思います。個人的にはこども園化して 1 園にしていく案に賛成です。

会長：どこまで 3 園で持ちこたえるかっていうのは、あるわけですが、15 人以下となるのを待つのではなくて、その先を見据えて、数年先を考えていくということが必要になってくると聞いていて感じました。

委員：森町の人口動態や園児の通園を配慮すると、資料 15 ページ第 3 案にあるような保育機能や子育て支援センターとしての機能を持たせた認定こども園を 2 園にしていくのが良いと思いました。

会長：認定こども園にするとすると、かなり施設改修が必要になりますので、2 園にする

となると幼稚園のままということになるかと思います。

委員：資料を見るとあと3年は3園のまま、いけるのかなとは思っております。人口減少のことを考えると、2園や1園になっていくかと思うのですが、できれば園児数を増やして15人以上を保っていければと思います。天方幼稚園に勤務していた時には、移住者の方が2名ほどいて、多様な考え方により園の活動が活発になったことがあったので、子育てのしやすい町だということを売り込んで移住者を増やすことを町全体で取り組んでいただけばと思っております。

委員：私は、3小学校3幼稚園が望ましいと考えています。一宮幼稚園・天方幼稚園の休園、天方小学校の廃校の背景を聞いていると、3小学校3幼稚園が継続できれば良いなと思っています。公立幼稚園・認定こども園（幼稚園部）の入所率をみたときに、B市が幼稚園と認定こども園が18園あっても、入所率が30%を切っていて、逆にC市は40%を超えていますが、このニーズ違いは何だろうと思っています。最終的に、認定こども園を森町に作るとしたとしても、その辺のニーズをきちんと把握していかないと、この数値って結局上がらず、箱だけになってしまうという恐れがあると思うので、この辺の各市町の幼稚園認定こども園の数と、その入所率には非常に興味があります。

会長：認可定員は、人口が少なくなるにつれてどんどん変えていっていると思います。例えば20年前にC市が、三つぐらいの施設を、統合して公設民営こども園を作っています。当時は、500人規模の子供たちがいる園でしたが、少子化の影響もあり今は当時の半分ぐらいの園児数で、空き部屋がある状態になっています。そういった場合、入所児童数に見合った数に認可定員を減らしているとは思うのですが、認可定員と入所児童数に差が生じるため、入所率が低くなってしまっているのかもしれない。そのあたりも参考にしなければならないと思います。もし、公立の認定こども園が1園しか無ければ、かなり人気が出ると思います。いくつも大きな園があると、運営は大変になってくるとは思います。全体の話聞いていて、1番に思ったことが、まずは3園の魅力を高めていく、そして維持していくということです。でもいずれは、全体の人口も減って、少子化も進んでいく中で、2園になっていくだろうというのは、誰もが予想できるところで、その後、認定こども園を作るとしたら幼保連携型で0歳から保育ができるように、というのが、委員の皆様の意見だったかなと思います。魅力的なまちにしていくのは当然なのですが、人口動態を考えながら、どの年度ぐらいで認定こども園にするのかというのをやはりある程度先を見越して決めておかなければならないと思います。委員がおっしゃったように、幼小の接続とかいろいろなことを考えると、三つの小学校に三つの幼稚園があることがやっぱり一番いいと思っています。地元の方の気持ちもその方がよろしいのではないかなというふうに思いますが、先のことを見越していくことも必要です。

Ⅱ 公立幼稚園の施設類型について

事務局説明（幼稚園保育園係長）

会長：質問をさせていただいてもいいですか。何か私立保育園の定員に空きが出ないよう配慮することとありますが、具体的にどのように配慮するのかなと思いました。また、試行的に保育園と職員の交流を実施することとありますが、公立保育園がない中でどのように実施するのか、子ども子育て会議の中で出てきたことを、具体的に補足説明していただけるとありがたいです。

事務局：まず、交流についてですが、森町の場合は、幼稚園が公立、保育所が私立民間という形になっております。公立幼稚園が認定こども園に移行する場合に当たって、公立保育園がないため、保育園職員の確保ができるような体制が整っていません。移行していくのであれば、保育の現状も踏まえながら、やっていく必要があるのではということで、職員交流の話が出ました。

会長：公立と民間の職員交流は短期的な交流では、あまり意味が無いと思っているので、現実的ではないと思っています。また、定員の空きが出ないようにすると、ここでは述べられていますが、これも難しいのではと感じています。

委員：森町では、保幼小中一貫教育というのを、昔から何十年もかけてやってきています。森中校区には、森幼稚園と私立保育園2園ありますので、公開保育を見学したり、一緒に研修を行ったりということはやっています。

会長：それは、どの市町でもやられていると思います。ここで述べられている職員交流は、人事交流のことだともっていますが、そうではないのでしょうか。

事務局：子ども・子育て会議の中では、交流について具体的に話されてはいなかったのですが、こちらのプランとしては、今やっている研修も含めたもののプラス、やはりこども園移行を見据えた上での交流っていうところまで考えると、人事交流というところまで含まれるのではないかなというふうに考えております。ただ、人事交流をすべきという明確なご意見としてはいただいてないものですから、会長がおっしゃる通り、こういった形でやれるかというところは難しい部分も出てくるのではないかと考えております。

会長：ありがとうございます。ここの部分のハードルが高いなと思いながら、でも実際にやっていく上では幼稚園員教諭がやっぱり保育園などで何らかの形で研修しないと難しい

部分があると思います。保育の現場には、目に見えないところが沢山あります。その大変さを含めて、人事交流しないとしても、何らかの形で研修が必要になってくると思います。

事務局：そうですね、他市町のこども園移行の話を聞いても、交流と職員の確保というところは課題だと聞いております。他市町の公立施設でもこども園へ移行したところは増えておりますので、他市町の状況も参考にしながら、こども園へ移行する場合は、進めていきたいと考えております。

また、私立の保育所の話ですけれども、子ども・子育て会議の中でも保育所の関係の委員さんがいらっしゃいました。公立の認定こども園移行により、少ない保育所から園児が移ってしまうのではないかと、民間の保育所の園児が減ってしまうと、経営が成り立たなくなる懸念もあるという意見もありましたので、そのようなところは配慮するようにしていきたいと思っています。

会長：それでは委員の皆様から、将来的な認定こども園移行についての是非について、ご意見をいただければと思います。

委員：質問なのですが、参考資料の公立幼稚園、こども園の入所状況について、保育園の方には何人ぐらい行っているのでしょうか。

事務局：こちらは公立幼稚園とこども園に限ったもので計算しております。私立の保育所があったり、私立の幼稚園こども園があったりってところの数字は除いたものになります。また、入所率は認可定員に対しての入所児童の割合になりますので、全体で未就学児が何人いて、その何割が幼稚園に入っているのか、こちらには示されてないためすぐにご回答することができなくて申し訳ないのですが、公立の幼稚園、こども園の状況としての資料としておりますので、認可定員に対してどれぐらいの児童数なのか比較するための資料として見ていただければと考えております。

委員：ありがとうございます。資料の教育利用率と保育利用率をみると、全体の人数もどんどん減っていく中で、幼稚園にどうしても入れたいという保護者の方は少なくなっています。例えば児童館は、評価をみても人気があり、さまざまなイベントをしていて、見ている人は見えていて評価をしているので、もう少し幼稚園の良さを発信していけば、歯止めになるのではないかと思います。

会長：そうですね。認定こども園へ移行するにしても、きちんと発信をしていくことは必要です。

委員：資料の保護者アンケートのグラフをみて、認定こども園を希望している保護者が半数近くいるので、これが全てなのかなと感じています。

発信はしていかなければならないと思います。その広報力も併せながら、移行するのはありかなと思っています。

委員：幼稚園に通っている保護者の方と話をしていると、下の子が保育園に通っていて、次、幼稚園に上がるか、そのまま同じ保育園に通うか、結構迷っている方が多いです。でもその中でもやっぱり幼稚園に通わせたいと言って、幼稚園を選ぶ保護者の方も凄くいます。例えば、認定こども園にするにあたって、保育園は保育園の良さ、幼稚園は幼稚園の良さがあるって、なぜ保育園から幼稚園にしたのかを聞いてみれば、何かそのこども園を作るにあたって何かヒントになることがあるのかなと、お話を聞いていて思いました。

会長：おそらく、公立の認定こども園になった場合は、基本的には、幼稚園の教育を元にして、地域を大切に、子供を中心に考え、子供主体の保育を展開するようになっていきます。民間保育園とは少しスタンスが違う部分で、幼稚園がこども園になったからと言って、基本的な教育部分での質は落とさないと思います。D市などでは、公立幼稚園が幼保連携型認定こども園になっていますが、基本的には地域との関わりや、園外活動なども幼稚園のものを引き継いでいます。がらりと変えるのではなく、公立幼稚園の良さを引き継ぎながらいくのが理想だと思います。

委員：先ほど個人の意見として、ゆくゆくは認定こども園にする必要があるのかなと思っています。最低基準もありますが、地域の人に納得してもらいながら進めていけるといいなと思っています。1園にしてこども園としてスタートしたときに、通ってよかったと思えるような園にしていけるように、保育をする立場として、教育の質の向上に力をいれて、もっと学んでいかなければならないと思いました。こども園にならないとしても、幼稚園の教育の質は落とさないよう力を入れてやっていきたいですし、情報発信も頑張っていこうと思います。

委員：この資料をいただいたときに、あの保護者のアンケート結果を見ましたら、先ほどもお話がありましたが、認定こども園を望まれているという結果が出ていますので、ニーズがあるということで、ゆくゆくは認定こども園にしていく方向で良いと思います。

委員：将来的にはやっぱり認定こども園化するのがいいのかなと思っています。幼稚園で職員と話をしていても、2園になってあとは1園になってこども園になるのかなということを皆思っています。どこにつくるのかという話がでますが、今それぞれの幼稚園は自然が沢山あったり施設があったりとか、他の高校・中学校・小学校の近くにあったりなど環

境のいいところにあるので、そのような良い環境で、子育てセンターを併設しながら、計画していければと思います。

委員：皆様と同じように、最終的には認定こども園にしていくのが良いと思っています。保護者アンケートをみても、地域の幼稚園とかに通いたいという思いはあるが、働いているので、幼稚園では厳しい、認定こども園ならばそれも可能だということで、認定こども園に通いたいという保護者の思いも入っているのではないかと感じています。広報が大事だと思っている理由として、今年度他県の親子が森町の小学校を見てみたいと言って、先日飯田小学校へ見学に来ていました。森町の小学校を見て回り、森町へ移り住むのではないかということを聞いています。そういったことを考えると、認定こども園にしても、新たに作るならば、それなりのカリキュラムを売りにして、やってかないと、運営が厳しくなるのではと感じています。

会長：全体的な意見としましては、将来的には認定こども園に移行していくっていうことについては、少子化、人口動態によって賛成であるということでした。移行する際には、現状のカリキュラムの質を落とさずにこども園に移行し、うまく広報もしていくことが重要だと思っています。じつは、この保健福祉センターもとても良い施設です。ほとんど町外の人には知らないような施設ですが、このようなところはなかなか無いです。今トレンドとしては大合併をしてない町が、子育てしやすいということで注目されていて、移住者も増えているということも報道されているので、こども園のことだけではなくて町全体にとって、一つの起爆剤となるようなものとして扱っていくっていうのが重要なことかなと思ったところです。

それでは、委員の皆様からのご意見を踏まえ、事務局で方針をまとめて、次回の検討会の方針に加えます。

（３）休園・廃園決定の判断基準及び利活用の方針について

事務局説明（幼稚園保育園係長）

会長：事務局から、休園・廃園決定の判断基準および利活用方針について説明がありましたが、委員の皆様からご意見をいただきたいと思います。こちらについて、一言ずつになるかと思いますが、この決定について、判断基準への意見ともし利活用について、アイディアがあればお話いただければと思います。

委員：判断基準につきましては、概ね賛成ですが、在園児のフォローについては、明確にして欲しいです。利活用に関しては、老朽化の問題もありますし、そのまま使うのも難し

いとは思いますが、子供と遊べるような公園になればよいなと思います。

委員：判断基準に関しまして、異議はありません。利活用についても子どもを最優先にというところに賛成です。

委員：私も判断基準についてはこれで良いと思います。天方地区には、公園がほとんどないので、遊ぶとなると天方小学校に行き行って遊んでいます。娘が、天方幼稚園をみて、あっちで遊びたいなどと言ったりするので、もし可能であるならば、外の遊具などで遊べるようにしていただけると嬉しいです。

委員：判断基準について、異議はありません。以前に休園していた三倉幼稚園では、5人集まれば開園するのかと期待していた保護者の方もいらっしゃったので、このようにはっきり基準を示していく方が良いのかなと感じています。利活用についてですが、昨年度まで一宮幼稚園・天方幼稚園がやっていたとしても、夏の時期になると草が伸びていたり、遊具の点検が定期的にされていないという中では、安心して遊んでいいよと言えない状況にあるので、なかなか利活用も難しいかなというのは思いますが、やはり地域の方が集まれる場であったり、遊べる場だったりになるといいと思います。

委員：判断基準はこれで良いと思います。遊具など安全で安心して遊べる場でしたら良いのですが、なかなかそこまで地域の方に全てお願いするっていうことも大変じゃないかなということを思いますが、やはり地域の方々の協力を得て、子供たち、およびその住民が安心して過ごし、活動できるような場にしていかなきゃいけないなということを思います。

委員：廃園の判断基準は3年と明確に示されることが大事だと思います。利活用できれば良いのですが、天方幼稚園の場合、カモシカやイノシシなどが出ていましたので、休園となった今どうなっているのか心配ではあります。

委員：皆様と同様の意見です。

会長：それでは、休園・廃園決定の判断基準については、概ねこちらで進めてくださいということでもよろしいかと思います。利活用についても地域の子どもたちが遊べる公園などがないということで、お金がかかる、かからないではなく、遊具などは整備していった方が良くと思います。もし、園舎が使えるのであれば、夏に使えるようにしていった方が良くと思います。気温の上昇により子どもたちが外で遊ぶことができなくなってきましたが、そのときに屋内で遊べるフリースペースのような保護者と一緒に集える場所として活

用できれば思っているところです。

それでは委員の皆様からのご意見を踏まえて、事務局の方でまとめていただきたいと思います。

全体を通してご質問等無ければ、以上で議事を終了し、進行を事務局にお返しします。

4 事務連絡（幼稚園保育園係長）

次回検討会の開催について

5 閉会（課長補佐）

以上「第3回森町公立幼稚園のあり方検討会」閉会